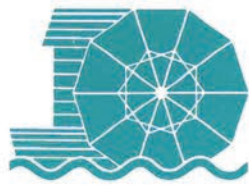


さいたまの博物館だより



# かわはく

創刊号  
1998. 3. 20 発行



## もくじ

創刊にあたって・・・・・・・・・・	2	「ライン河1320kmの旅」・・・・	10
「かわはく」へ行って来たよ・・	3	来館者20万人達成！・・・・	10
カワシロウおひろめ・・・・・・・・	3	展示・親水施設紹介 1	
特別展「鉄砲堰ってなんだ」・・	4	「大水車」・・・・・・・・・・	11
これ、なーんだ？・・・・・・・・	5	かわはく日誌・・・・・・・・・・	12
カワシロウ講座		ミュージアムグッズの紹介(1)	
「荒川の流路の変遷」・・・・・・	6	「サイの歯化石文鎮」・・・・	14
ベーゴマ工場見学記・・・・・・・・	8	プレイリーダー紹介I・・・・	15
博物館の周辺を訪ねて・・・・	9	教育普及活動のご案内・・・・	16
川をめぐることば・・・・・・・・	9		



## 創刊にあたって

現在の私たちの生活は、氾濫する膨大な情報に取り囲まれているといえます。それらの情報の中で、どの情報が自分にとって必要なものかを見極めて活用することが大切になって来ました。

一方、なにか事業を企画し実行する者にとって、広報活動がいかに重要な役割を果たすか、これは申すまでもないことです。より多くの人々に的確な情報を提供することによって、広く利用や活用が図られることとなります。

さて、当館は昨年（平成9年）8月1日の水の日に開館いたしました。「荒川を中心とした埼玉の河川や水と人々の暮らしとの関わり」をテーマとし、様々な体験学習を通して、水に親しみながら楽しく学べる全国初の河川系の総合博物館を目指しました。お陰様で開館以来8か月間に20万人の入館者を数え、うれしい誤算となりました。館職員一同の努力もさることながら、このことを通してテレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のメディアの持つ威力を痛感した次第です。

このたび、当館が創刊します「かわはく」は、当館から発信する各種の事業など、最新の情報を的確に皆様にお届けするための大切な情報紙です。また、皆様から当館に対するご意見やご要望等にも気軽にお寄せいただく交流の場にもしていきたいと考えております。

これから刊行してまいります「かわはく」を十分にご活用いただき、多くの皆様に当館をご利用いただきたいと願っております。





## 「かわはく」へ行ってきたよ！

たくさんの方に博物館を見て、さわって、考えていただきました。その中で2名の方に感想を寄せていただきましたので紹介します。

### 躍動する博物館

大久保 郁子（寄居町在住）

住まいが近いこともあり、私は「さいたま川の博物館」に6回も足を運んでいる。

最初は、「身近なところに文化的な施設ができたんだ」と興味本位で出かけたけれど、回を重ねるたびにその内容の濃さに驚かされるばかりである。

日本初の河川系の総合博物館とあって、その製作に携わった人々の意気込みがどれを見ても感じられる。川というものを多面的にとらえて見学者に伝えようとするそのエネルギーが二度、三度と見学を重ねるたびに熱いメッセージとなって伝わってくる。

そして、これでいいと満足せずに、もっとより良く伝えたいという博物館を支えている人々の熱意が、生きて躍動する博物館にしているように思う。

これからも川の博物館の充実ぶりを楽しみに足を運んでいきたい。

### はくりょくまんてんささ舟体験

清水 優（小学4年生）

私は、川のはく物館に行って、一番楽しかったのはアドベンチャーシアターです。

ささ舟に乗ってささ舟体験をしました。とても小さな、ささ舟に乗ってわくわくドキドキしながら川を流れて行きました。鳥といっしょに空を飛んだり、ダムの下を通ったり、岩にぶつかったりして、はくりょくがあって、すっごく楽しかったです。

### マスコットキャラクターのなまえが決まったよ！

「かわはく」のマスコットキャラクターは「カワセミ」です。彩の国だよりで広く募集した結果、734通もの応募がありました。ひとりで何通も応募してくれた人や名付け親としての思いをとくとくとつづってくれた人など、選考者もどれが「かわはく」にふさわしいか迷うほどでした。選考の結果、与野市の日向俊洋さんの「カワシロウ（川を知ろう）」に決定しました。応募してくれた皆さん、どうもありがとうございました。



ぼく、かわはくのマスコットキャラクターのカワシロウっていうんだ！  
よろしくね。



平成9年度 第3回特別展



## 「鉄砲堰ってなんだ」

### 1. 特別展の意図するところ

“鉄砲堰”とは、山奥で伐採した木材を水の流れで運び出すために、材木を使って人工的に沢に造った堰のことです。簡単にいえば、木組みのダムのことです。

林道が整備されず、ワイヤーロープの無い時代に、山奥で伐採した木材を運び出すためには、沢水の方が大変役立ちました。沢をせき止め、少ない沢水を効率よく溜める堰を築き、鉄砲水のように“ドオー”と一気に溜めた水を下流まで押し流し、その力で伐採した木材を流し出しました。このことを“鉄砲流し”と呼んでいます。全国各地に見られる“川狩り”とか“小谷狩り”と呼ばれる木材搬送の水力利用形態の一つです。

埼玉県内での鉄砲流しは、荒川の支流である大滝村の中津川流域で昭和 20 年代まで盛んに行われていました。中津川の山奥では、昭和 30 年代まで林道が整備されず、容易に大量の材木を運び出すためには、鉄砲流しが有効でした。

この鉄砲堰の造られ方には、秋田式と越中式と呼ばれる二つの基本形式があり、堰を築くための材木の組み方や放水口の開き方等に違いがあります。また、沢の大きさや水量の規模で堰の築き方を決定しますが、比較的小さい沢で秋田式が築かれていたようです。

これらの鉄砲堰が、いつ、どのようにして、中津川流域に導入され、その運営形態はどのようなものであったか、不明な点がたくさんあります。

そこで、今回の特別展では全国の鉄砲堰と鉄砲流しの実態を、模型や絵画、古文書、写真資料等によって紹介することにより、鉄砲堰の発生と伝播を明らかにするとともに、中津川流域の林業と川との関わりについて理解してもらおうとするものです。

## 2. 展示資料のあらまし

### (1) 模型資料

所在が確認されている全国の鉄砲堰の模型を一堂に展示しその構造と機能を紹介します。

本館所蔵の大滝村中津川で設置されていた越中式及び秋田式の鉄砲堰模型をはじめ、静岡県本川根町の越中式鉄砲堰模型、富山県庄川町の越中式改良型の北海道式鉄砲堰模型を展示。

### (2) 絵画等の美術資料

鉄砲流しをはじめ、さまざまな運材法が描かれている絵画や図絵の美術資料を展示し、川狩りの様相を紹介します。

本館所蔵の柚子造材之画一式をはじめ、木曾式伐木運材図絵（長野営林局蔵）、秋田柚子造材之画（秋田県立博物館蔵・秋田県指定文化財）、川浦山御用木御伐出絵図（群馬県倉淵村・村指定文化財）等を展示。

### (3) 古文書や写真等の歴史資料

さまざまな運材法の技を伝授するための古文書や鉄砲流しを始めた訳を記録した絵馬、鉄砲流し等の川狩りを写した写真等の歴史資料を展示します。

本館所蔵の運材図絵や鉄砲流し絵馬鉄砲流し解説絵馬（ともに静岡市落合白髭神社蔵）、富山県庄川や秋田県米代川・静岡県大井川・埼玉県荒川等で写された数多くの鉄砲流しをはじめとする川狩り関係写真を展示。

### (4) 川狩り道具

鉄砲流しをはじめ、川狩りをしていた人々が使用していた道具や衣類等を展示します。



## 3. 開催期間や関連事業について

### (1) 開催期間

平成10年3月28日(土)から5月5日(火)まで

(休館日 3/30、4/6・13・20・27)

### (2) ワークショップ「鉄砲堰を語ろう」

【期日】平成10年3月29日(日)

午後1時30分から3時30分だれでも参加自由です。

【内容】中津川の鉄砲堰の造り方や運営方法、その歴史性等について、実際に携わった人々の証言を中心にフリートーク方式で行います。

### (3) 講演会

【期日】平成10年4月26日(日)

午後1時30分から3時だれでも聴講自由です。

【題目】『水源のムラから～山地の仕事と暮らし～』

【内容】荒川流域における林業と鉄砲流しについて、豊富な調査事例を踏まえた民俗学の視点からご講演いただきます。

【講師】小林 茂先生（埼玉県文化財保護審議会委員）

## ！これ、なーんだ？

みなさん、この写真は何だと思えますか？

これは、ウォータージェットカッターのノズルの写真です。ノズルから出る水の太さの直径は0.1mm。水圧は2,800気圧で、角砂糖の上におよそ3トンの車がのっているのと同じ圧力です。



# 荒川の流路の変遷

堀口萬吉先生（埼玉大学名誉教授）

平成10年2月21日（土）にさいたま川の博物館で実施している「カワシロウ講座」で埼玉大学名誉教授の堀口萬吉先生に「荒川の流路の変遷」と題して講演いただいたものを担当者がまとめたものです。図は「荒川 自然」より引用しました。

## 1 はじめに

「荒川の流路の変遷」という題で講演しますが、最初は「荒川の流路の変化」にしようか、と考えていたんです。しかし、「変化」という言葉では時間軸がない。そこで、移り変わりがわかるという意味で「変遷」という言葉にしました。

## 2 現在の荒川

荒川は甲武信岳に源を発し、秩父山地を横断し、寄居で埼玉平野に流下し、東京湾に注いでいます。一般的には、上流・中流・下流と分けますが、荒川総合調査では、地形と人との関わりから、V字谷など急峻な地形を流れる源流域、段丘地形の発達した中を流れる河岸段丘域、扇状地域、瀬替えが行われ、川幅は狭いが広い河川敷をもつ人工河川域、都市の中を流れ、直線的な都市河川域の5流域に分けています。

河川の縦断面図は日本の急峻な地形を反映しています。その中でも信濃川と荒川は同じ甲武信岳に源を発するにも関わらず、埼玉県側は流れが急です。

区分	A 源流域	B 河岸段丘域	C 扇状地域	D 人工河川域	E 都市河川域
地形	V字谷	河岸段丘	扇状地	自然堤防	三角州
長さ	赤沢谷合流から26km	48km	19km	41km	39km

## 3 流路の変遷

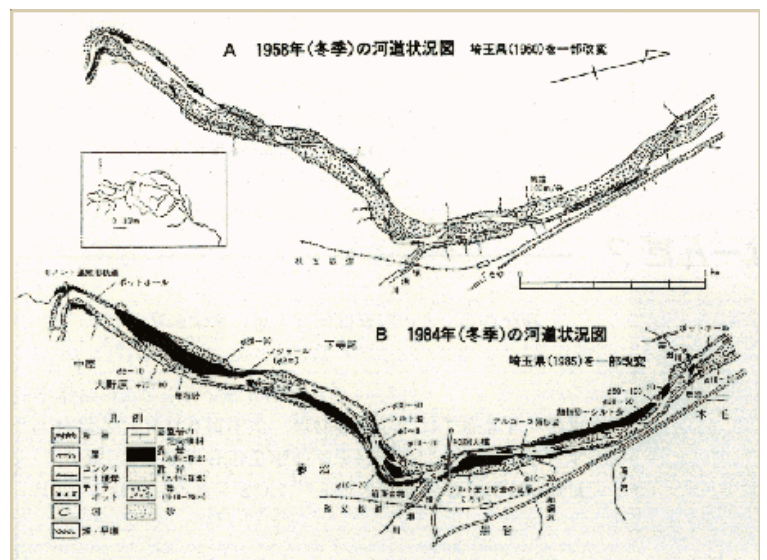
現在から過去にさかのぼって見ていきます。

### (1) 近い過去の流路変化（人為的改変）

#### ① 荒川本流の河道状況の変化（25年間）

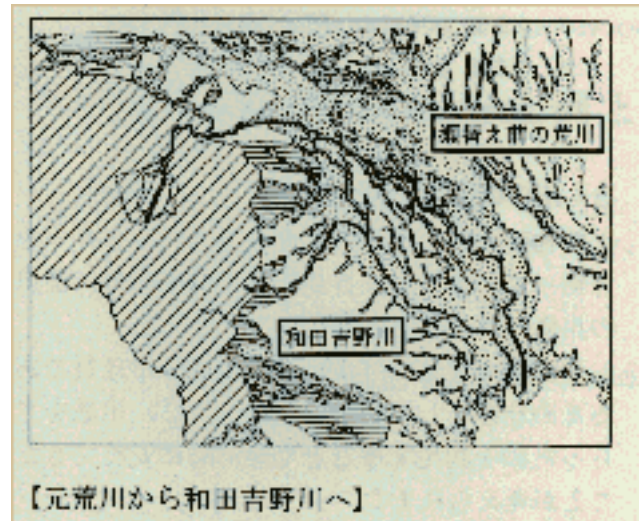
2つの図を比較すると25年間に大きく変化したことがわかります。A・B・C区（熊谷の上流）では岩盤がでてきた。また、最近、荒川の砂が増えてきた。これはダムができたことというより荒川の流れが変わったのではないかと思います。

25年間の河道状況を河原の砂利の変化から見ることができます。25年たったらまた調査し、記録を残すことで比較できます。



## ②本流の改修・直線化（約 70 年前）

明治43年の水害を期に荒川の治水工事が始まり、蛇行した川から幅の広い直線的な川に変わりました。明治17年に作成された迅速地図は自然の河道が表現されており、現在の河道と比べると変化の様子がわかります。この改修により漁法も変わりました。



## ③荒川流路の瀬替え（約 350 年前）

寛永年間、元荒川を流下していた荒川の流路は、瀬替えにより久下から南方の和田吉野川の流路に付け替えられました。徳川幕府による利根川東遷事業と一連の工事です。この瀬替えにより現在の河道になりました。

## （2）遠い過去の流路変化（自然的変遷）

地殻変動や氷河など気候変動による自然上の変化です。日本では地殻変動が激しく、第四紀の約100万年くらい前までしかわかりません。。

### ①最終氷期（約 2 万年前）

寒冷気候で海水面が200m近く低下し、大宮台地南方では、現在より40mくらい深い峡谷ができました。その後の縄文海進により、埋められ現在の低地となっています。



### ②低位～中位段丘の時代（約 5 ～ 20 万年前）

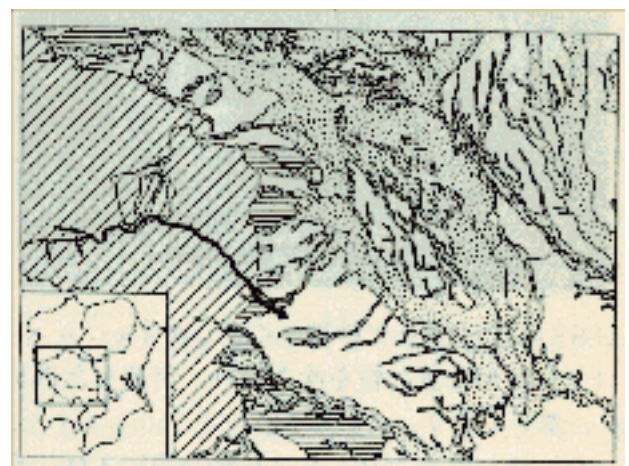
寄居より上流地域で河岸段丘が発達しており、その分布から河道が推定できます。

### ③高位段丘の時代（約 50 万年前）

尾田蒔丘陵で見られる扇状地堆積物が高位段丘として残っています。

### ④飯能レキ層の時代（150 万年前）

飯能市の南にある加治丘陵には、飯能レキ層と呼ばれる厚い砂レキ層があります。この中に閃緑岩の円レキが入っており、この円レキは奥秩父山地から運ばれてきたと考えられています。飯能方面に流れていた荒川が北へ流路を変えたのは外秩父山地が隆起したことによりです。





# ベーゴマ工場見学記

川口市は、映画「キューポラのある街」でも知られる鑄物の街で、現在でも多くの鑄物工場があります。昭和の初めまで鍋や釜などの日用鑄物を生産していましたが、最近では自動車部品や灰皿・文鎮などの工芸品も生産するようになりました。

今回、2月の土曜おもしろ博物館の「ベーゴマにチャレンジ」で使用するベーゴマを日本で唯一生産していた日三鑄造所を見学してきました。

## 1 ベーゴマのはじまり

ベーゴマのいわれは貝独楽（バイゴマ）。巻き貝を半分のところから切って、その中にロウや鉛を詰めて遊んだのがはじまりといわれます。今のようなベーゴマになったのは明治中期以降です。

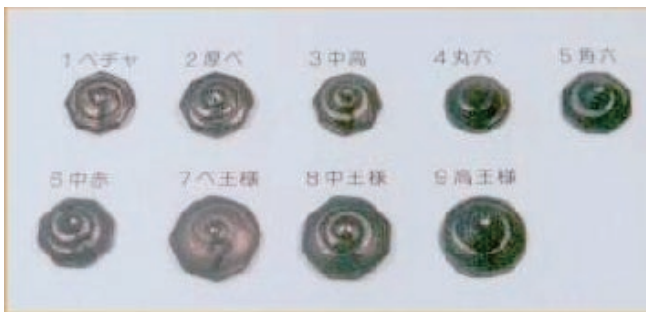
## 2 ベーゴマのできるまで



- (1) ベーゴマの面のデザインを作り、それを元に木型をつくります。
- (2) 木型からアルミの種型をつくります。
- (3) 砂型の枠の間に種型をはさみ、珪砂とコーンスターチを混ぜた鑄物砂をつめます。
- (4) 枠と種型をはずすと凹んだ砂型ができる。
- (5) キューポラで溶かした鉄をそそぎ、冷えるまで待ちます。
- (6) 振動を加えて砂型をくずします。
- (7) 細かな鉄の粒を吹き付け、付着した砂を落とします。
- (8) 鉄のブロックと共に角筒の中に入れ、ガラガラと回すとバリが取れてできあがり。

### ■ベーゴマの種類

9種類あり、各自がそれぞれ薄く削ったりして勝負に勝つように工夫しました。



- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 1 ペチャ | 直径28mm、薄い八角形       |
| 2 厚ペ  | 直径28mm、ペチャより厚い     |
| 3 中高  | 直径28mm、厚ペを高くした     |
| 4 丸六  | 直径27mm、円錐形         |
| 5 角六  | 直径28mm、八角形、6種類ある   |
| 6 中赤  | 直径28mm、中高と角六の掛け合わせ |
| 7 ペ王様 | 直径36mm、ペチャの径を大きくした |
| 8 中王様 | 直径36mm、厚ペの径を大きくした  |
| 9 高王様 | 直径36mm、丸六の径を大きくした  |

## 3 川口の鑄物と荒川の関係

鑄物砂として現在では珪砂とコーンスターチを使っていますが、50年ほど前までは、荒川の川底の砂と粘土を利用していました。

その理由として(1) 石英が砂の主成分であるので珪砂として利用できた (2) 川底をさらった砂を利用したので経済的に安くできたことが考えられます。

日三鑄造所の辻井五郎氏にはベーゴマを作る現場で説明をしていただきました。

なお、残念ながら3月23日で日三鑄造所は45年の歴史を閉じました。





さいたま川の博物館の周辺を訪ねて

## 県立歴史資料館

当館レストハウスの休憩コーナーに展示されている「ぶらり荒川道草マップ」から第1回目は、比企郡嵐山町にある県立歴史資料館をとりあげて紹介します。

この資料館は、1976年に武蔵武士畠山重忠ゆかりの菅谷館跡(国指定史跡)の地に建てられ、比企地域の中世武士や城郭、民俗に関わる展示を行ってきましたが、平成9年4月、比企歴史の丘の見どころを紹介する総合ガイダンス施設としての機能を導入して、展示館をリニューアルオープンしました。比企地域の恵まれた自然に親しみながら、文化財を訪ねてはいかがでしょうか。



### ■入館のご案内

開館時間 9:00~16:30 (入館は、16:00まで)

休館日

月曜日(国民の祝日は除く)

国民の祝日の翌日(日曜日・土曜日・休日は除く)

12月1227日~1月5日

入館料

一般 50円(団体30円)

学生・生徒30円(団体20円)

中学生以下の方、65歳以上の方、障害者の方は無料

### ■所在地・交通

〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷757

Tel 0493-62-5896 Fax 0493-62-5897

東武東上線・武蔵嵐山駅から徒歩13分

東松山I.C.から国道254号線小川方面へ10分

## 川をめぐることば

## ー川と河と江ー

荒川というように日本では「かわ」というと「川」をつかいます。ところが、お隣の中国では揚子江の「江」や黄河の「河」のような「かわ」も使います。「川」と「江」と「河」はどう違うのでしょうか？ 漢和辞典で調べてみました。

“

川：陸を流れる自然の水流。水流の総称。兩岸の間を穿通(せんつう)して流れる水の意。

江：広大な川の意。

河：水流の曲がりくねった川の意。

”

【角川 大字源より一部抜粋】

それぞれ少しずつ意味が異なるようです。熟語にすると、また違いがハッキリできてきそうです。河岸(かし)と川岸(かわぎし)のように。

日本の川は、オランダの河川技師のデレーケが「滝のような川」と表現するように、あまりにも流れが急峻なため、また、広い川幅が長くつづかないことや、大陸のように大きく蛇行することがないため「江」や「河」という文字が使われなかったのでしょうか。



## アドベンチャーシアター ライン河 1320km の旅

みなさんに大好評をいただいているアドベンチャーシアター「荒川ささ船の冒険」に新しい作品が加わりました。「ライン河1320kmの旅」という作品で4月より上映予定です。



ライン河はヨーロッパを流れている全長1320kmの川です。ラインバルトホルン山の氷河を源のひとつとし、スイス、オーストリア、リヒテンシュタイン、フランス、ドイツ、オランダの六か国を流れ、大西洋にそそぐ国際河川です。古くから国境を越えた川や運河といった水路の利用が盛んで、西ヨーロッパの大動脈と

いわれる所以です。昔から人々の暮らしと川との重要な関わりがあったのは、荒川と同じです。

作品は、長瀬でキャンプをしていた親子がびんに入った古い地図を見つけるところから話が始まります。地図はライン河の地図で、ラインの精霊の案内で遠くヨーロッパへ旅立ちます。ライン河は氷河と夏にしか現れないトーマ湖（標高は荒川の水源地とほとんど同じ！）などたくさんの源流があります。源流域であっても氷河が地形をつくったため川幅は広く、荒川との違いが見られます。各国の文化の様子、川と人とのたたかい、ライン地溝が生まれた様子、船上でくらす人々など、美しい映像とすばらしいオリジナル音楽をバックに見る人を飽きさせません。

上映時間はおよそ30分、「荒川ささ舟の冒険」と交互に上映します。

かわはくの楽しみがまた増えました。ぜひ、みなさん見に来てください。

## >>>>>来館者 20 万人達成！おめでとう<<<<<

平成9年8月1日開館以来8ヶ月180日で入館者20万人となりました。

20万人目の来館者は、北本市在住の橋本亘平君（小学校3年生）です。家族4人で来たそうです。仲良く家族4人と小池館長によりくす玉が割られ、花束と記念品が贈呈されました。亘平君から「前に社会科見学で来たことがあります。今日も大きい水車を楽しみにして来ました。こんどは上のお姉ちゃんともいっしょに来たいです。」と喜びのことばをいただきました。

これからもさいたま川の博物館職員一同、皆さんに喜ばれる博物館づくりを心がけていきたいと思います。





## 日本一の大水車

### ■当館の大水車の特徴

さいたま川の博物館の噴水広場には、水輪の直径が23mもある「日本一の大水車」が設置され、当館のシンボルとして、またランドマークとして来館者の注目を集めています。水輪の幅は2.1mあり、容量0.1m<sup>3</sup>のバケット（水受け）を64個備えています。水輪は総ヒノキ造りで重量約22.5トン、フランジ（円形のつば）を備えた心棒の部分は鉄製で、重量約11トンあります。岩手県の木工業者と鉄工業者が合わせて建設しました。



大水車は、バケットに溜まった水の重力により、約1分間で1回転します。水は、水道水を循環・ポンプアップして水輪に掛けています（胸掛け式）。軸受けのベアリングの性能がよく、水輪全体のバランスもよいので、わずか40kg程度の力で回転します。

### ■大水車建設ラッシュ 「我こそが日本一なり」



当館が建設される以前に、すでに日本各地で、「世界一」「日本一」「関西一」などと呼ばれる大水車が建設されていました。直径10mをこすものでは、山口県美川町の「観音水車でかまるくん」（スギ製、水輪の直径12.036m）、滋賀県能登川町の「関西一の大水車」（米ヒバ製、同直径13m）、鹿児島県祁答院町の「世界一郷水車」（クロマツ製、同13.2m）、岡山県神郷町の「日本一の親子水車」（マツ製、同13.6mと6m）、熊本県湯前町の「世界一の親子水車」（マツとスギ製、同14.1mと5m）、広島県河内町の「朝日の大水車」（ヒノキ製、同14.3m）、大分県本匠村の「日本一水車」（広川スギ製、同18.18m）が知られていました。

しかし、当館の建築や展示の設計を進めていた平成6年5月に、何と、水輪の直径が22mもある「日本一の大水車」（青森ヒバ製）が、青森県深浦町に建設されたというニュースが入ってきました。しかも、「みちのく温泉」の旅館を経営されている方が個人で建設されたというのですから、驚きました。「何とか日本一の大水車をつくって集客力を高めたい」。準備事務に携わっていた皆がそう考えました。建築設計事務所と何度も打ち合わせ、限られた予算の中で工夫して、直径23mの大水車が実現することになりました。開館してみて、この大水車を一目見ようと当館を訪れる人を数多く見るたびに、あらためて「日本一」にしておいて良かったなと思うのです。

（文責：当館専門調査員兼学芸第一課長 本間岳史）



開館以来、みなさんに「さいたま川の博物館」を知っていただくため、数々のイベントを実施して来ました。どのイベントも多くの方に参加していただき、大好評でした。( )内の数字はカウントできた参加人数です。

## 1 イベント

### (1) オープニングイベント

#### ■開館記念映画会 8月2・3日

「絵の中のぼくの村」「ガンバとカワウソの冒険」「洪水をなだめた人びと」を上映しました。(437人)

#### ■真夏の雪祭り 8月9・10日

真夏の雪遊び・雪のスロープ・雪中宝さがしゲームに子どもたちの歓声があがりました。日本のおいしい水体験・モール細工・ガマの油売り口上・バナナのたたき売りもあり、珍しさもありよこばれました。(2,080人)

#### ■熱気球とジャンピングバルーンによる空中散歩 8月15・16日

何日も前から問い合わせがあり、空への関心の高さに驚きました。当日の天気が心配でしたが予定をこえる来館者に楽しんでいただきました。(440人)

#### ■臨時映画会 8月16・17日

多くの来館者があり、券売機前に大行列ができ、その対応として臨時に上映しました。(352人)

#### ■音楽劇「あらかわ讃歌」 8月23日

「みんなの地球の会」が創作した音楽劇で荒川の自然とその恵みを受けている人々との関わりを表現した音楽劇。特別に第一展示室を使用し、演者が2階(上流)と1階(下流)に分かれ人びとの交流が表現されました。(450人)

#### ■大ジグソーパズル大会 8月30・31日

マスコットキャラクター「カワシロウ」の大ジグソーパズル大会。子どもから大人まで時間を競い合いながら夏休み最後の土日を楽しみました。(472人)



### (2) 川辺の交流事業 11月14日(金)(県民の日)

本館入場者と、館内外のイベント参加者の延べ約1万人が「楽しくてためになる」一日を過ごすことができました。凧作り講習会・映画「バルト」上映・太鼓演奏・フルート演奏・ラフティングボートとカヌー体験・ベーゴマ回し・みそ田楽・舟人鍋・日本の水の利き水体験のイベントとAMU'S、荒川流域ネットワークによる展示など盛りだくさんでした。埼玉県民の日は、原則として有料施設はすべて無料となります。(9,592人)

## 2 映画会（第2土曜日）

- 第1回（10月11日）「石を架ける」（16人）
- 第2回（11月8日）「あらかわ」（15人）
- 第3回（12月13日）「続あらかわ」（24人）
- 第4回（1月10日）「せんぼんまつばら」（10人）
- 第5回（2月14日）「絵の中のぼくの村」（93人）
- 第6回（3月14日）「ガンバとカワウソの冒険」（60人）

## 3 カワシロウ講座（第3土曜日）

### ■第1回 12月20日

「荒川のレキを探る－川原のレキの観察と標本づくり－」

荒川でもレキ種が多いことで知られる立ヶ瀬で実施。午前中にレキの種類分けをし、午後標本板にレキを貼り付けました。その後レキ種による密度の違いを調べました。（5人）

### ■第2回 1月17日

「白鳥ウォッチングと化石探検」

川本町の白鳥飛来地に行き、小杉昭光先生を講師にお招きし、白鳥の生態を観察を行いました。また、保坂勇さんには現地でいろいろお世話になりました。

なお、周辺の川原で化石の見学を行う予定でしたが、15日の大雪のため中止となりました。（10人）



### ■第3回 2月21日

「荒川の流路の変遷」

埼玉大学名誉教授堀口萬吉先生に講演していただきました。（30人）

講演内容については「かわはく（本号）」に掲載しました。

## 4 土曜おもしろ博物館（第4土曜日）

### ■第1回 1月24日

凧をつくろうー凧づくり講習会ー

買い物袋を利用して、簡単にできて、よく飛ぶ凧を作り、外で飛ばしました。意外な物から意外に良く飛ぶ凧ができ参加者もびっくり！（30人）



### ■第2回 2月28日

ベーゴマ回しに挑戦！

午前と午後の2回実施。子どもも大人も夢中になって回しました。

県民の日のイベントで回せるようになった小学生もいてうれしくなりました。（56人）

## 5 特別展

### ■開館記念特別展Ⅰ 8月1日～ 8月31日

「集まれ 日本のあばれ川 -33の荒川-」 荒ぶる川、暴れ川の異名を持つ「荒川」は全国で33あります。この33の荒川を一堂に会し紹介しました。

### ■開館記念特別展Ⅱ 10月25日～ 11月30日

「記憶の中の川遊び - 藪部澄の残した日本」

昭和20年～30年代にかけての日本の諸河川において川遊びの日常的な光景を写真で紹介しました。河川の状況も大きく変化し、懐かしさも手伝って特に年輩の方々には非常に好評を博しました。

この特別展に関連して11月8日に映画「あらかわ」を上映しました。11月9日には、写真家の南良和氏の記念講演「川を見つめた人々」を行いました。（43人）

なお、残念なことに藪部澄氏は平成8年3月お亡くなりになりました。

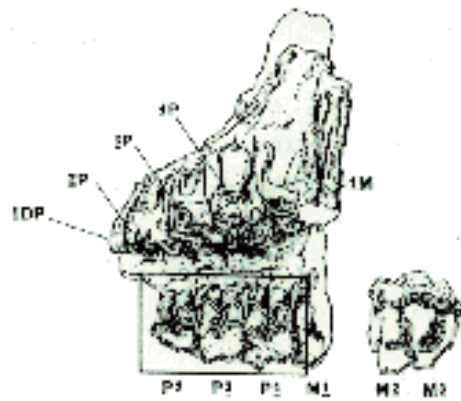


## サイの歯の化石文鎮

この文鎮は、埼玉県大里郡川本町平方の荒川右岸河床から発見されたサイの歯化石を型どりし、複製したものです。

### ■サイの歯の化石

下の図は、上顎の歯の化石を下から見たスケッチです。下側が右の歯、上側が左の歯です。文鎮は、形のよく残っていた右側の第2・第3・第4前臼歯(P2・P3・P4)を用いて製作しました。



文鎮複製部分  
上顎の化石(スケールは10cm)

【歯はπを逆さまにした形が特徴】

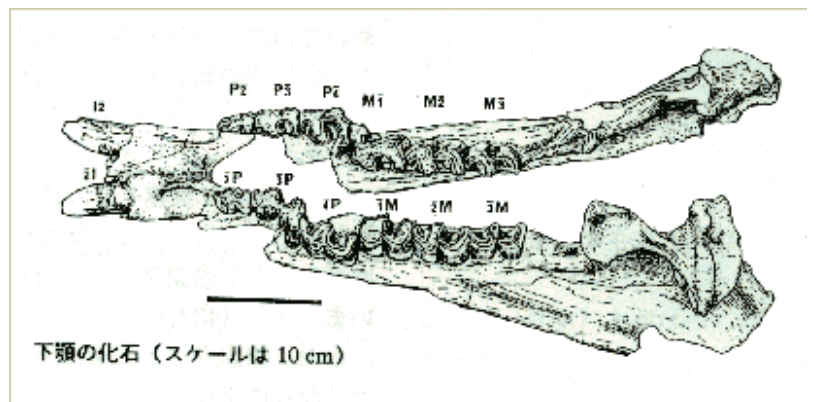
### ■絶滅したサイ

このサイの化石は、下顎に発達した牙状の切歯があり、犬歯を欠くこと、前臼歯が臼歯化していることなどから、すでに絶滅してしまったテロオケラス亜科というグループに属していることがわかりました。

### ■サイの歯の進化の不思議

上顎歯の咬合面はエナメル質が複雑に入り組んでいます。この特徴は古いサイほど単純で、新しい種ほど複雑化していく傾向があり、種類を決めるひとつの手がかりになっています。

一方、下顎の歯は、あまり変化しませんから不思議なものです。



下顎の化石(スケールは10cm)

このようにサイの歯の化石文鎮は学術的にも価値の高いものです。

さいたま川の博物館ミュージアムショップで定価2,000円(消費税別)で販売しています。

産地:	埼玉県大里郡川本町平方の荒川右岸河床
地層:	楊井層(上部中新統)
発見者:	柿沼知子・中村和子
発見日:	1982年8月30日
種類:	Teleoceratinae gen.et sp. indet.
論文:	吉田健一・宮崎重雄・三島弘幸・柿沼知子・中村和子(1989) 埼玉県川本町の中新統楊井層よりサイ化石の発見。 地球科学, 43, 43-48.

# プレイリーダー紹介 I

さいたま川の博物館の運営の特色にプレイリーダー（展示解説員）による来館者への案内・解説があります。2回に分けてプレイリーダーの声を紹介します。

## 井口 京（埼玉県出身）

お客様の笑顔を見るために、私も笑顔でがんばっています。

## 清水 礼子（埼玉県出身）

子どもや年輩の方、障害者の方など、今まで接する機会の少なかった人に出会い、多くの事を学びました。これからも笑顔でがんばります。

## 内田 みゆき（埼玉県出身）

プレイリーダーという仕事は、たくさんの人と接する事ができて、とても嬉しいです。これからも一生懸命、頑張りたいです。

## 加島 京子（埼玉県出身）

この仕事をし、たくさんの方と接する事ができ、良い経験ができました。これから色々な事があると思いますが、笑顔を大切に頑張ります。

## 吉田 梢絵（埼玉県出身）

私はプレイリーダーという立場から色々な事を学び、経験したことをとても誇りに思います。これからも積極的に頑張りたいです。

## 井上 弘昭（埼玉県出身）

プレイリーダーの間に芽生えた友情は、支流である一人ひとりが出会い合わさってできた荒川の本流のように大きく素晴らしいと思います。

## 河野 麻由美（埼玉県出身）

普段の生活と関わりのなかった川の事について、仕事を通して触れることができたことと、たくさん子ども達と接することができて良かった。

## 島崎 尚子（埼玉県出身）

私は川の博物館と出会い川について色々なことを知ることができました。これからも川について楽しく学べる博物館であって欲しいです。





## ■ 4月

### 11日 川辺の発見工房 Tel 「砂鉄でアート」

当館の砂の広場で磁石を用いて砂鉄を集め、講座室で色画用紙の上に模様を作り、クリヤラッカーで固定する。

### 19日 シネマかわはく「ライン川と人々の生活」

西ヨーロッパの大動脈—ライン河—は古くから国境を越えた水路の利用が盛んであった。ひとつの共同体に向かって進みはじめている背景を理解する。

## ■ 5月

### 8日 川辺の発見工房「川辺の植物パウチング」

当館の敷地周辺で川辺の植物を採集し、講座室でパウチでラミネートする。はがき、しおりを作ります。

### 17日 シネマかわはく「バクの川—われら鶴見川流域人—」

東京都町田市を源とし、東京湾にそそぐ鶴見川、その流域はバクの形をしている。鶴見川周辺のできごと、生き物たちの営み、人々の活動の記録映画。

### 24日 カワシロウ講座 ㊦「荒川上流の溪畔林（自然）」

奥秩父のトチノキ・カツラ・シオジの溪畔林。この貴重で美しい林の更新と役割を紹介する。

## ■ 6月

### 12日 川辺の発見工房「ベーゴマにチャレンジ」

糸を巻くのもちょっと大変！君もベーゴマ回しにチャレンジ！

### 21日 シネマかわはく「三年寝たろう」平成元年度教育映画祭優秀作品賞受賞

三年三月寝続けた怠け者、寝たろうが無理だと言われた水路を子どもたち、村人たちの協力によりきり開き、大豊作の秋を迎える。

## ■ 7月

### 10日 川辺の発見工房「ささ舟をつくろう」

大滝村に生育するチシマザサを用いてささ舟をつくり、荒川わくわくランドの水路に浮かべる。

### 18日～平成10年度第1回特別展「遡る～サケのきた道（仮称）」（詳細は次号で紹介）

### 19日 シネマかわはく「河童」（予定）

### 24日 カワシロウ講座 ㊦「荒川の船車（民俗・文化）」

荒川にあった珍しい船水車。水のエネルギーを動力にして製粉した先人の知恵を探る。

■ 6月29日～7月8日は、全館、殺虫薫蒸消毒のため臨時休館となります。

■ 毎月、第2土曜日は、「川辺の発見工房（土曜おもしろ博物館）」、第3日曜日は「シネマかわはく（映画会）」を実施します。どちらも午前10:30～と午後2:00～の2回実施します。奇数月の第4日曜日は、「カワシロウ講座」を実施します。

インターネットでも情報が紹介されています！

[http://www.pref.saitama.jp/ken/ken\\_04/kawahaku/index.html](http://www.pref.saitama.jp/ken/ken_04/kawahaku/index.html)

【注意！】行事は都合により変更になることもあります。

また、Telのついた行事は、電話もしくは、Faxで実施月の1日からお申し込みください。